

がんごの 赤ひげ



天心堂 地域包括ケアシステム



目次 contents

P1~2	未踏の頂上2025年に向けての登山道検索
P2~3	就任にあたり
P4	第18回九州予防医学研究会学術大会
P5	モバイル診断導入
P6	おおの郷10年目
P7	デイサービスの可能性とこれからの事業展開
P8	cafe「桃花流水」
P9	大南散歩 番外編



【天心堂の医療目標】 良質にして包括的な保健・医療・福祉を地域に提供する そして100年を超えて生きつづける医療を実践する

未踏の頂上2025年に向けての登山道検索

社会医療法人財団 天心堂 理事長 まつもと たいすけ 松本 泰祐



2025年65歳以上の日本人口は36,573千人(75歳以上21,786千人)総人口の30.3%の予測となっています。何とこれはカナダの人口に匹敵するそうです。

この高齢者人口に対し、2025年時点での介護需要予測は2010年対比で40%増(現時点から約30%増予測)、医療需要予測は10.6%程度となっているようです。

これは若者(生産人口)から見ますと扶養家族が増えたという事になります。

これは養えないのではないのでしょうか？

そこで、様々な事が言われています。

1. 経済成長なくして財政健全なし、GDP600兆円を目指す
2. 生産人口年齢のアップ(定年延長)
3. 出産政策(10~20年計画)
4. 移民政策(日本人価値観の浸透が必要であり、そう簡単ではない)

これら口上では言えますが、

1. GDP600兆円は各種イノベーションが必要条件と考える
2. 若者の社会保障費負担には限界がある
3. 老後の年金生活に絶対的信頼がない

現実には

1. 消費税を欧米並みに20%まで上げる
2. 高齢者が増えるので、浅く広い社会保障制度によるサービス提供にならざるを得ない。

さて、それで良いのでしょうか。

私達、医療福祉提供者は何を目標に、より良いサービス提供が出来るようになるのか？問題解決に何が求められているのか？

そこには人口減少に悩んだヨーロッパに参考事例

があるように思います。

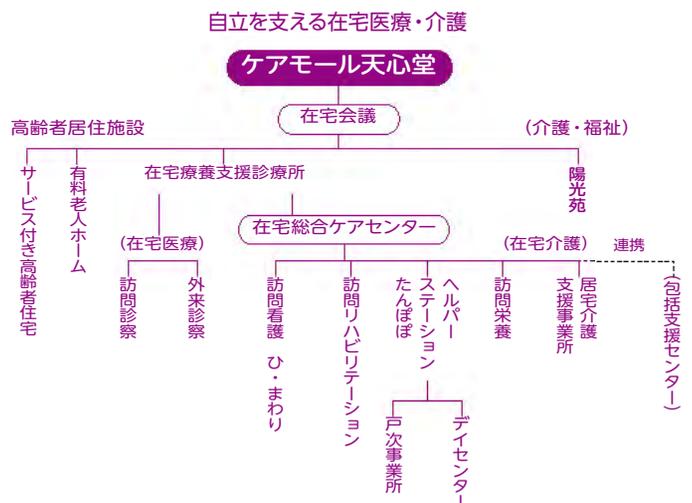
1. オランダのビュートゾルフ(地域ケア)は看護師さんが中心になってヘルパーさんなどの応援を得ながらケアプラン、訪問看護、生活支援を行う
2. フィンランドのラヒホイタヤ:多資格を保有してケアを行う。例、理学療法士+看護師+介護福祉士+保育士などこれらはケアの集中化、効率化、合理化であります。

これらは一人が資格の多様性(多資格保有制度)を持ち多角的に仕事をするという事であり、更に個人のキャリアアップにも繋がるのです。

その為にはAI、IoT、ロボットやICTの利用によるイノベーションで対応する。これに伴う、経済成長は所得増加の事でもあるので個人所得を増やせば本人のモチベーションは上がり、やり甲斐もあるというものではないでしょうか(インセンティブ)。

私はこれが、地域包括ケアシステムの構築のための業務の集中化、合理化、効率化に繋がると考えています。

私共、天心堂は、上記の状況を作るべく、昨年10月、ケアモール天心堂を立ち上げました(組織図参照)。



就任にあたり

社会医療法人財団 天心堂

副理事長 石丸 修



次に、肝心な医療の今後はどうなるのでしょうか？

国は治す医療から、治し支える医療と謳っています。そして、年間医療費の自然増を5,000億円以内に抑えとも言っています。医学・医療の進歩は確かに日進月歩で早期発見・早期治療、更に医療技術の進歩で在院日数の短縮に繋がり、医療費の抑制は可能かと思いますが、技術に伴う費用の増加で、その医療費抑制を打ち消しています。医療施設にとっては控除対象外消費税の負担は大きく押し掛かり、設備投資が出来ない状況に追い込まれています。

これらの問題点を念頭に病院機能分化と連携は進めるべきです。高齢者は多疾患保有患者さんが多く、慢性期病床、在宅療養の需要は必然的に大きくなります。

そういった観点から、地域医療連携推進法人は必要なツールと思われれます。

私共、社会医療法人は地域の中核法人として位置付けられています。周囲と連携を図り、集中化、合理化、効率化を目指す地域包括ケアシステム構築は少子高齢社会には必要な事と考え、一つの使命として努力していく所存です。

尚、長期不在であった整形外科では今川先生、総合診療科の甲原先生、橋本看護部長が4月より着任され、より地域に密着した医療展開が出来ると確信しています。



今回副理事長になりました。いつの時代にも医療は大変大変だといわれ危機意識を訴えるのが新任の幹部の通例ですが、今日の状況は若干変わった危機だと思っています。

第1は国家政府の財政的行詰まりがあります。異次元金融緩和はいずれコントロール不能のインフレを誘発するかもしれません。また国民の税負担も極限状態です。

第2は医療介護の質の変化です。長寿化に伴い疾病の変化と目標の変化、健康寿命の深化と予防医療の需要の拡大です。

第3は医療スタッフの質の変化、ライフスタイルの変化があります。

まず第1の国家の財政的行詰まりは多くの国の歴史を見ても、国家の税収が国民の行政需要に追い付かず、結果天文学的財政赤字となり、負債を戦争でチャラにする方法がとられてきました。

戦争をしないできない今日では戦略的な調整インフレにて対応するしかありませんが、それもまだ上手くできず。国家財政の中で医療福祉に回せる予算を窮屈にしています。

第2に長寿化は寝たきり防止認知症防止にシフトさせています。

それは医療介護の質を変化、結局お世話型の介護や至れり尽くせり医療から自立支援型の介護医療に変換しつつあります。

医療だけで言えば疾病治療型の医療から、予防や寝たきり防止型の医療への転換が図られており、実際この方法しかないと考えます。

第3に医療従事者の質の変化についていえば医療スタッフも長寿となり、働く期間がずいぶんと長くなりました。それ自体は良いことと思いますが、社会が

変化している以上、各世代での社会経験、考え方も異なるため、組織の合意形成を得ることがきわめて困難になりつつあります。

医者は24時間365日働くべきであるとするやや古い考えもあれば、医師も労働者本人の人生、家族、社会に対する責任を重視すべきという意見もあります。

コメディカルスタッフも技術の在り方、技術研鑽の在り方、对患者感も違います。

その中で天心堂の医療をどう守るべきか、
(職員へのメッセージ)

①患者さんの状態に応じた医療をしっかり提供する。同時に患者さんの個人としての尊厳性重視が必要、まずは名前を覚えましょう。

社会地域や従業員から尊敬と指導性を認められた医療スタッフは、患者さんの置かれている環境をしっかり把握しているのです。

教科書での患者は皆同じですが、現実の患者は、同じ病気でも病院の近くに住んでいる方と山奥に住んでいる方とでは、対応に差が出てくるのは当然と考えてください。

②天心堂の医療の特徴、地域医療を実行するためには自分がどう働き、足りない部分をどう補填すべきかを考えてください。

看護師であれば、自分たちが病院で実行している看護を在宅独居の患者にどのように役立ててもらおうか、実行方法を提供すべきか考えてください。

セラピストであれば、ADLを維持するため、在宅での工夫を熟達してもらおう。

退院前訪問は本来点数がなくても実施すべきことでしょう。

医療介護経営は大変ですが、医療介護なく今日の国家の社会を維持していくことは不可能です。ですから、この点では自信をもって対応したいと思いますが、今までやってきたからとか単に親切にすればよいというのではなく、本当に患者さんに役に立つサービスかよく吟味する必要があると思います。

最後に私は皆様をお願いします。天心堂の職員は、仕事をしなければならない。ただし働きすぎはいけない。過ぎたるはなお及ばざるがごとし。

この度常務理事を拝命されました陽光苑施設長の河村です。

急速に進んできている超高齢化社会に対して、国は医療・介護のあり方を大きく変えようとしています。医療・介護にかかるコストの見直しは避けられないことではありますが、天心堂グループでは人としてのあり方を見据えた的確な医療・介護を提供できるよう、その体制を整え取り組めるように尽力致す所存です。また、一般の救急医療だけでなく、自然災害時における救急医療に対しても常日頃からの備えを考え取り組みをおこなっていく必要を感じています。

予防し治し癒すことへの取り組みを基本理念として、天心堂グループでは健診センターや病院、診療所、老健施設、在宅医療チーム、有料施設などと連携をして行っております。その連携には多職種の職員が関わっております。当法人におけるかれらの働きは県内随一であろうと思っています。

当法人に関わる患者、利用者そしてその家族に対する医療・介護といった社会保障を提供することに終始するためにも、当法人の職員およびその家族や当法人に関わる方々が安心して働き、生活できるような環境を整えるべく微力ながら邁進していく所存です。非才であることは私が十分承知しているところではありますが、何卒ご協力とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



第18回九州予防医学研究会学術大会

社会医療法人財団 天心堂 健診・健康増進センター 事務長 和田 幹弘

健診・健康増進センター並びにセンター長松本泰祐が第18回九州予防医学研究会学術大会の主幹施設及び、



大会長になりました。予防医学と社会の関わりを再認識しようという事で、「予防医学で社会を守ろう」をテーマとして掲げました。

例えば社会で起こる様々な事故の多くは健康に問題があるから起こり、更に老いが迫り、徐々に被介護



者になっていくのではないのでしょうか？健康とは快眠、快便、快食、非メタボ、そして心の安寧であると考えます

(要約すれば心身ともに健康ということでしょうか)。予防医学と社会の関連は1. 睡眠時無呼吸症候群(SAS)、2. 認知症、3. 老化関連：フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症などが考えられますがこれらを診断し、どのようにすれば社会的事故を減少させ健康寿命を堅持できるのでしょうか。今回の研究会では、これらを念頭に討論して頂きたく演題を募集いたしました。

3月11日(土)・12日(日)九州各県より両日で48団体、延べ451名のご参加をしていただきました。

一般演題15演題、パネルディスカッション予防医学と



社会で3演題。ワークショップではストレスチェック外注受諾機関の立場からみたストレスチェックの現状で6演題。



そして、大会長講演「予防医学の社会貢献」、ランチオンセミナーでは日本赤十字社大分赤十字病院 肝胆膵内科副部長本村充輝先生による「膵臓癌と超音波内視鏡」、基調講演は研究会副会長の那須繁先生による「九州予防医学研究会に期待すること」、特別講演I



当法人循環器内科部長河野嘉之先生による「睡眠時無呼吸症候群と循環器疾患」、特別講演IIは研究会名誉会

長小山和作先生による「予防医学が新しい社会を創る。人類を救う。」特別講演IIIでは大分大学医学部 神経内科講座 教授 松原悦朗先生をお招きし「認知症を防ぐ・治すための処方箋」、特別講演IVは研究会会長による「ストレスチェックの今後」、特別報告では、日本赤十字社熊本健康管理センター 事務部長村田啓二様による2016年熊本地震時「その時、私たちが経験したこと」の体験と対応をお話いただきました。

初めての大会主幹施設でしたが、好評のうちに幕を閉じる事ができました。今後も予防医学で健康寿命を伸ばせるよう努めてまいります。



モバイル診断導入

へつぎ病院 事務長 後藤 政彦

へつぎ病院では、今年の5月から、モバイルパソコンを利用した遠隔診断システムの運用を開始しました。導入した目的は、「救急患者さんの受け入れ増加」・「医師の負担軽減」であります。

モバイル診断は、※図1にありますとおり、時間外・休日等に救急患者さんが来院された際、当直医が専門医の意見を必要とする場合に使用します。救急患者さんの採血検査やレントゲン撮影の結果を自宅にいるそれぞれの専門医のモバイルパソコンへ送ります。自宅にいる専門医は検査結果等から速やかに診断を行い、当直医と連携を取ることで適切な治療を早期に行うことが出来ます。これにより、今まで以上に時間外・休日においても地域の救急患者さんへ質の高い医療を提供することが可能となります。

また、今までは時間外・休日に自宅にいる専門医が当直医から診断の依頼があった場合、直接病院に出向くことがあり、医師の疲弊に繋がっておりましたが、モバイル診断を行うことで、医師の負担軽減に繋がることにもなります。

現在は、外科・整形外科・循環器内科でモバイル診断を運用していますが、今後は検証を重ねモバイルパソコンを増やし、更に質の高い医療の提供を検討しております。

へつぎ病院 救急モバイル体制

2017年5月15日～試験運用開始



図1



おおの郷10年目

おおの郷 今後の展望

介護老人保健施設 おおの郷
施設長 阿南さよ子

おおの郷は地域のニーズに応えながら、現在ほぼ満床状態を維持しております。

近隣に入院施設がないこともあり、入所の方は医療必要度が高い方、重度認知症の方など利用者層は多様ですが、どのような状態の方でも基本的には、受け入れる事をモットーとし、近隣の医療機関、居宅支援事業所等と連携しながら老健としての機能を果たしています。

短期入所では、独居で体調が悪い方や入院を希望されない方の経過観察などで飛び込みも多い状況です。小規模であることから個々の職員のスキルも高く全員が協力しながらマルチに動いてくれます。職員がのびのびと働いている事で、利用者様もみんなおおの郷に来れば自宅にいるかのように、不思議と元気になる方も多くいます。

今後、高齢化の先進である大野町を中心とした周辺の地域ではおおの郷への期待は大きいと考えます。職員一同、これからも地域と連携し、一人一人への関わりを大切にしながら10年20年と存続して行きたいと思えます。



10年を振り返って

介護老人保健施設 おおの郷
介護科長 後藤 博史

おおの郷は豊後大野市大野町にH19年7月に開設した25床の介護老人保健施設で現在は短期入所生活介護12床を備え持つ計37床の施設ですが、開設より地域社会に貢献出来る小規模老健を目指し、今年で開設10周年を迎えました。

老健の存在意義が問われ、「施設から在宅へ」の方向性が明確に示されている中、豊後大野市の老健では数少ない在宅復帰支援型施設としての機能を果たしています。

「在宅強化型」への転換も考えましたが、施設の規模や地域性など様々な事情で施設の努力だけでは困難な条件なため、当面は現状維持と、今まで培った看取りケアの経験を生かし、「在宅支援の結果に看取りがある」と言う考えに基づきながら、地域復帰の拠点としてご利用者が安心できる温かい施設を創造し今後も頑張っていきたいと思えます。



デイサービスの可能性とこれからの事業展開

デイサービスようこう 事務長 鍛治矢 哲

デイサービスようこうが2016年10月に開所して約1年が経過しました。

現状、全国のデイサービスの事業所数は、約34,693カ所。この数値は、大手コンビニである3社の合計である35,140カ所と同じくらいの数となります。この大南地区にも同様に数多くのデイサービスが存在して様々なサービスを提供されております。

天心堂では通所系サービスとして、デイケアとデイセンターの運営がされていますが、ではなぜ天心堂は、デイサービスを新たにするのか。デイケアとデイサービスの二つの通所系事業をする法人は稀にしかありません。それには、幾つかの理由がありました。まず天心堂には、デイセンターがあります。デイセンターでは、要支援・要介護の軽い方を対象として「社会活動の維持・向上」を図る為に健康維持のためのトレーニングや他者交流が行われています。

一方、老健に併設されるデイケアは、一日に約50名が来苑する大きな施設です。一般的にデイケアとは、介護認定を受けた利用者が自宅から医師が常駐する通所リハと呼ばれる施設に通い、在宅生活を続けていく為に「医学的管理」を行ないながら「心身・生活活動の維持・向上」を図るためのもので、デイサービスに比べ医療的ケア・リハビリテーションが充実しています。しかしデイケアにはそれ以外にもデイサービス事業の目的である「社会活動維持・向上」「他者交流」「介護者等家族支援を行う為のレスパイト」目的の利用者もいます。これらの利用者は、介護保険料の高いデイケアではなく、本来は、単価の安いデイサービスの利用が適切かもしれません。しかし、老健から在宅復帰をされた利用者や天心堂の医療機関との深い関わりのある利用者が多く、利用者の希望もあり他法人の運営するデイサービス利

用は勧めにくい状況でした。何故なら、天心堂だから利用者様の様々な医療情報や介護情報が一元管理されたデータにより把握でき、都度、利用者目線での適切なサービス。また、医療と介護の連携により安心した「トータルサポート体制の確立」が図られるのは、天心堂だからこそなのです。

この様な理由により、天心堂では、新たに有料老人ホーム光風苑のあるケアモール天心堂に在宅診療所ASOと同時にデイサービスようこうを開所しました。

デイサービスようこうの特色としては、医療・介護の情報共有の他に「幼老複合施設」があります。「幼老複合施設」とは、高齢者施設と幼児・学童の施設を併設して各々の交流を深める事により、高齢者の孤独解消。また、幼児・学童には、思いやりを育む効果があります。デイサービスようこうでは、日々、同敷地内ある院内保育所の幼児が遊びに来て、同じ建物にある学童が元気よく飛び込んできます。

デイサービスようこうの開所当初の10月では、一日平均利用者数は5.8名。その後、地域に順調に天心堂が運営するデイサービスのサービス内容が根付き、半年後の2017年3月には、一日平均利用者数は19人。6月では、一日平均利用者数は25名となり、一月あたりの延べ利用者数は、659名となりました。

2017年より、理容サービスの導入や口腔ケアによる健康管理強化を図る為に新たに歯科衛生士の配置。また、母体である老健から医師の巡回による相談サービスを新たに展開。更に今後、歯科医師による無料の検診サービス。各種イベント等利用者目線によるサービスの充実を図りながら、2017年度中に一日平均利用者数44人。一月の延べ利用者数を、1,100人を目標として、さらに地域に親しまれるよう展開してまいります。



ときを演出する、名残と薫り。 包まれる、穏やかな麗しさ cafe「桃花流水」



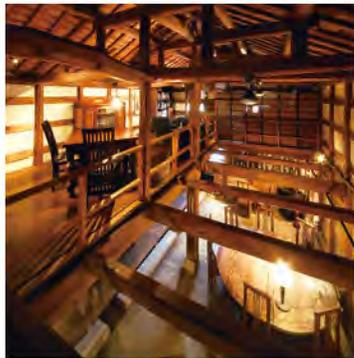
明治の蔵を、くつろぎの空間へ。

天井の梁と土壁。古き時代の面影がそのまま残る店内。

テーブルと脚は酒造りで使われた酒樽の蓋とせいろを使用するなど、什器や家具、装飾に至るまで帆足家に代々伝わるものをしつらえています。

かつての文人墨客が愉しんだ遊び心溢れるサロンの雰囲気そのままに。

普段味わうことのできない空間がここにあります。



目指したのは、今を生きる人の理想郷。

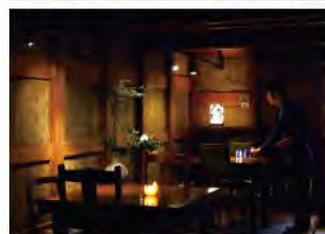
帆足本家はその才能を認め、パトロン的存在となった豊後竹田出身で江戸時代の文人画家 田能村竹田(たのむらちくでん)。彼の作品からイメージした店名「桃花流水」は、いつまでも穏やかで平和でありたいと願う、現在の理想郷の意。



戸次ごぼう

大分の中心を流れる大野川。かつて川の氾濫でたっぷりミネラルを吸った肥沃な土壌は、根菜類をたくましく育てます。特に戸次は昔からごぼうの産地として知られ、香り高い味わいの深さが特徴です。

ごぼうの効能、素晴らしさを多くの方々に知っていただくために、戸次ごぼうを生かしたお料理を考案いたしました。新たな時代に向けて、お菓子やコーヒーなどにも挑戦。ここにしかない味をお楽しみ下さい。



第4回

ちょっとそこまで、大南散歩。

だいなん散歩【番外編】 真田幸村の愛馬の墓



天心堂へつき病院 医療福祉相談室 課長 天野誠司



今回は趣向を変えて「だいなん散歩【番外編】」として御紹介させていただきます。

昨年のNHK大河の主役だった真田幸村。その愛馬のお墓が滝尾にあるのを御存知ですか？JR滝尾駅のすぐ裏側、「碓島」に在ります。どうしてそんな所に？と思わずにはいられません。大坂夏の陣で真田幸村を討ち取ったのは越前勢。幸村討ち死にの際にその愛馬は戦利品として越前勢の大將「松平忠直」に献上されました。当時、「日本一のツワモノ」と謂われていた真田幸村を打ち破った証拠として、松平忠直は自分の乗馬にしたのだそうです。この松平忠直、徳川家康の次男である「結城秀康」の長男にあたります（家康の孫）。13歳で越前75万石の当主となり、20歳頃に大坂夏の陣に参加。真田撃破の武勲を建てましたが、若君の故か

家臣の統制がとれずお家騒動が勃発。28歳で幕府から隠居を命ぜられ、豊後府内藩へお預けの身となりました。自分の栄光のシンボルだった「幸村の愛馬」も当然豊後に連れて行きました。忠直の居館は滝尾に建てられました。この馬、滝尾で何年生きていたのでしょうか？ともかくこうして、碓山に「幸村の愛馬」の墓が在るわけなのです。

